

花だんに用いる草花の種類

園芸部 石田文三郎

花壇に用いる草花の種類は季節によって異なるがなるべく開花期間の長いもので、次々に開花するもの、草丈のあまり高すぎないもの、活着のよいもの、色沢のよいもの葉のあまり大きくならないものなどが挙げられます。

春花壇用の球根類

チューリップ、ヒヤシンス、クロッカス、水仙類等が用いられる。

春花壇の草花類

パンジー、デージー、アルメリア、斑入ペンケイソウ、ベコニアセンパーフロレンス等が用いられます。

夏花壇に用いる草花の種類

サルビア、セロシヤ、マリゴールド、アゲライタム、ペチュニヤ、アンチリウム、カンナ、アキランタス、ベコニアセンパーフロレンス等が用いられている。

秋花壇に用いる草花

秋菊(ポットマムの類)葉牡丹等が用いられる。

球根類

この球根類は秋十月頃花壇に植込んで春札幌付近では五月初旬頃開花觀賞するもの

で、球根の種類としては次のようなものが用いられる。

チューリップ

種と咲き種があり花壇用としては、早咲種を選んだ方が草丈もひくく花もよく揃って咲く。晩咲種は草丈も高く開花期も晚いところから主として切花用に用いられる。植込みの時期は秋十月頃花壇を掘り起こし、元肥として堆肥の腐ったものを少々敷き土塊をくだけき球根のよく充実したものを選ぴ一五畝四方に一球の割合で植込み、土の深さは球根の上に三畝位土がかかるように植込みそのままにしておけば春雪どけ後五月初旬頃見事な花壇をながめる事が出来る。花壇用のチューリップの品種としては、緋赤色種カイザースクルーン、赤色種ウィリヤムピット、黄色種ゴールドデンメジャール、白色種アルビノC等がある。

ヒヤシンス

球根植物で花壇に植込みはチューリップと同じで品種としてはロードマコレイ(赤色)、ラグランデス(白色)、ミモサ(紫色)などがある。

クロッカス

球根植物であるが球根は小球で植込みの間隔は一〇畝に一球位でよい。花色は白、紫黄等がある。

水仙花壇

チューリップ花壇と同じように花壇を掘り起こし元肥を施し間隔は十五畝に一球の割合に植込み球根の上に三畝位の土を覆う事はチューリップの植込みと同じである。花壇に用いる水仙の品種としてはキングアルフレット、エンペラ、フオチュン、ゴールドフレックなどがある。

春花壇植込みの草花

パンジーを春花壇に植込むには前年七月頃種子を播いて成育したものを春五月中旬頃花壇を掘り起こし、元肥として油粕の粉末を三・三平方呎に対し四デンス位を施し土塊をくだけき、パンジーの株を色の配合を考えて一五畝四方に一株の割合で植込み充分如露で灌水する事が必要である。

花色は紫、黄、白、ツマ白、樺などが普通用いられている。

デージー(和名ヒナギク)

宿根草で草丈一五畝内外、前年五月頃種子を播いたものを育成し翌年の五月頃パンジーなどと花壇に配色を考えて植込むもので株間は一三畝四方に一株の割合で植込みばよい。このデージーは宿根草であるから手入して作れば二ヵ年位は花壇に用いる事が出来るが二年以上は株が退化して花輪も少なくなるので新しく栽培したものを植込んだ方がよい。花色は赤、桃、白の三色。

斑入ペンケイソウ

宿根草で花は美しくないが、葉を見るも

ので、葉は青葉に白の斑がありなかなか美しいもので挿木及株分で繁殖する事が出来る。前年の六月頃挿木したものが春五月頃に春花壇に用いられ草丈もひくく花壇用に適している。

ベゴニヤセンパーフロレンス

秋海棠科に属し普通は温室鉢植植物として用いているが花壇用草花としても春花壇、夏花壇共によく用いられる。花も葉も美しく、開花期間が長いところから欠く事の出来ない花である。

花色は赤、桃、白等その外八重咲種もあるが普通一重咲が主に用いられる。植込みの間隔は一三畝四方に一株でよい。

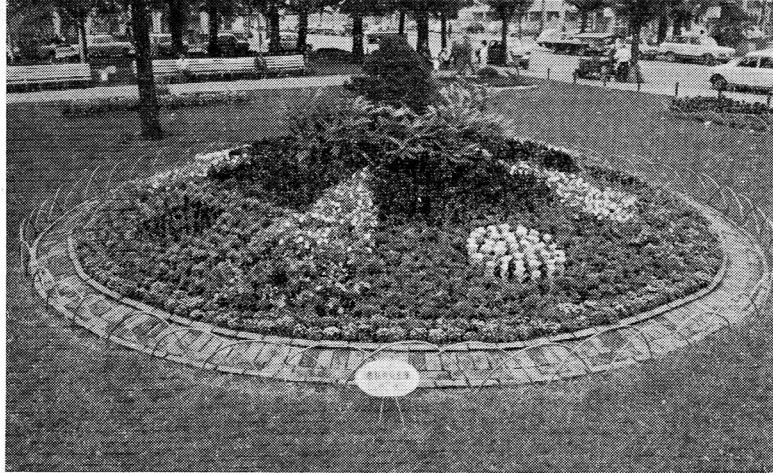
夏花壇の草花

サルビア

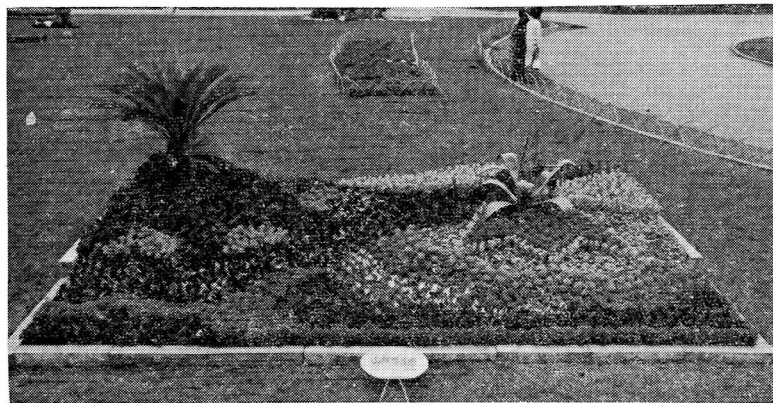
和名をひごころもそうと称し七月頃から秋の十月頃まで花が咲きつづけるので夏花壇としては欠く事の出来ない草花として用いられております。この草花は草丈が四〇畝から六〇畝位に達し主として花壇の中心に用いられ、花色は赤、白、桃、紫等があるが花壇用としては赤色種が主に用いられ花壇に植込む間隔は二〇畝四方に一株が適当である。植込後は如露で充分灌水する。サルビアは温床又は温室でなければ露地では温度が低いいため発芽が困難で苗を育てる事が出来ないで、苗を買った方がよい。

マリゴールド

和名を万寿菊と称し一年草で草丈は二五畝以上七〇畝に達する種類もあるが花壇用としては二五畝位の高さの種類で八重種が主に用いられる。花色は黄又は黄金種があ



寄植花壇(夏花壇)



り植込みはサルビヤと同じでよい。

セロシヤ

和名をケイトウ(鶏頭)と称し一年草で花色は赤、黄、草丈は二〇センチから四〇センチのものもあるが花壇としては草丈の二〇センチ内外のものが用いられる。植込みの間隔は一五センチ四方に一株位が適當である。開花期間が長いところから花壇に欠く事の出来ない草花である。

アゲラータム

和名を、カッコーザミと称し一年草で花色は白、紫、薄桃等の色があって、草丈は一〇センチ一五センチ内外のため花壇の主に縁取りに用いられ株間は二三センチ四方に一株位が適當である。

アリサム

和名をにあいなづなと称し一年草で草丈二〇センチ内外花色は白、薄桃、紫等の花色があつて開花期間の長いところから花壇の縁取りに主として用いられる。植込みの間隔

はアゲラータムと同じでよい

ペチュニヤ

和名をつけばねあさがおと称し一年草で草丈三〇センチから四五センチに達し花色は白、赤、桃、紫等開花期間も長いところから花壇用に用いられ植込みの間隔は一五センチ一株位でよい。八重咲種もあるが鉢植として用いられ、花壇用としては不適當である。

アンチリスム

和名を金魚草と称し本州方面では二年草であるが北海道では一年草として扱っている。花色は白、赤、濃紅、紫等があり開花期間も長く、草丈三〇センチから六〇センチ以上に達するものもあるが草丈のひくいものが花壇用として用いられる。植込みの間隔は二〇センチ一株位でよい。

コリウス

和名を花しそなどと称し一年草で葉を觀賞する植物で葉の色は黄、赤、紫、斑点入等がある。草丈六〇センチ内外に達するが幹を挿芯すれば高さを自由に制限する事が出来るのと葉が美しいので最近花壇用によく用いられる。植込みの間隔は一五センチ一株位でよい。

カンナ

和名をだんどくと称し球根植物で草丈一四〇センチ以上にも達し葉が広く花は白、黄、赤、桃、斑点入等があり、開花期間が長いところから花壇の中心に主として用いられる。植込みの間隔は三〇センチ一球位でよい。

アキラナサ

和名をいぬびうと称し温室であれば多年草であるが花壇等では一年草である。葉を見る植物で黄又は緑葉に赤の斑点入り草丈

一〇センチ内外、盛夏の頃は葉の色が特に鮮やかになるので最近花壇用によく用いられる。繁殖は挿木である。

以上が夏花壇に用いられる草花の種類である。

秋花壇に用いられる草花

北海道では十月初め頃から急に寒く、強い降霜があるために花壇に用いられる草花の種類も少なく、秋菊及び葉牡丹が用いられている。

秋菊は大菊及び小菊の種類があり共に花壇用に用いられているが最近は大輪種で外国輸入種のポットマムと称する品種は草丈がひくく三〇センチから四五センチ位で花色は白、黄、桃、樺等のものがあつて鉢植用及び花壇用として用いられる。小菊も花壇用として用いられるが草丈が高いのが欠点である。

葉牡丹

名花キャベツと称し一年草で草丈三〇センチから六〇センチ以上に達し丈のひくいものが花壇用として用いられる。葉を觀賞する草花であつて葉の色は青葉に白の斑点入り又は青葉に赤の斑点入その外チリメン葉のものもある。植込みは秋の十月初旬株間は三〇センチ三五センチ一株位が適當である。葉牡丹は丈の高いものは切花用に用いられ草丈のひくいものは葉も小形のものの花壇用として用いられる。

以上が北海道に用いられている花壇及び草花の種類である。

この外沈床花壇と称し地面を八〇センチ乃至一〇センチ低くして花壇を作り、上方から見る花壇の方式もあるが北海道では余り用いられない。